

平成16年度

中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会  
第2回 比屋根湿地・泡瀬地区海岸整備専門部会資料

住民意向調査結果

平成17年3月7日

内閣府沖縄総合事務局開発建設部  
沖縄県土木建築部  
沖縄市東部海浜開発局  
(財)港湾空間高度化環境研究センター

- 目 次 -

1 . アンケート調査	1
1.1 アンケート調査の概要	1
1.2 アンケート調査結果	1
2 . ヒアリング調査	11
2.1 調査内容	11
2.2 実施期間	11
2.3 ヒアリング対象者	11
2.4 ヒアリング事項	12
2.5 ヒアリング調査結果	12
3 . 野鳥・干潟観察会	19
3.1 観察会総括	19
3.2 開催内容	19

# 1. アンケート調査

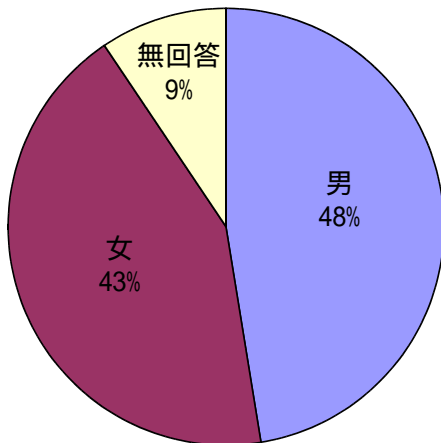
## 1.1 アンケート調査の概要

実施時期及び期間	平成16年12月1日～12月15日
調査対象 (関係自治会)	泡瀬・泡瀬第一・泡瀬第二・泡瀬第三・比屋根・高原・与儀 ・海邦町・大里・東桃原・古謝
配布数	3000部
抽出方法	沖縄市の住民台帳により抽出を行った。 各自治会の人口比を考慮し配分・抽出
実施方法	郵送法
回収結果	回収数：741人/送付数：3,000人 = 回収率24.7%

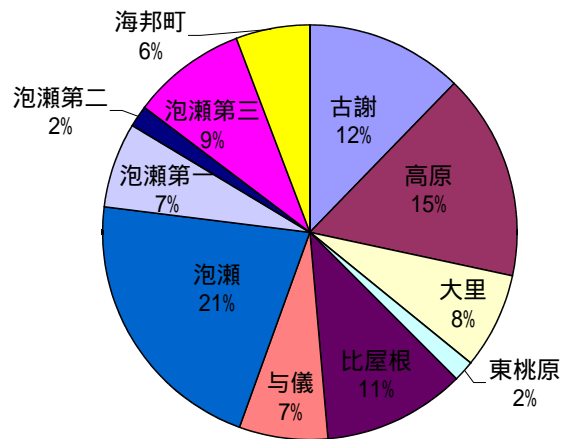
## 1.2 アンケート調査結果

### (1)あなたご自身について

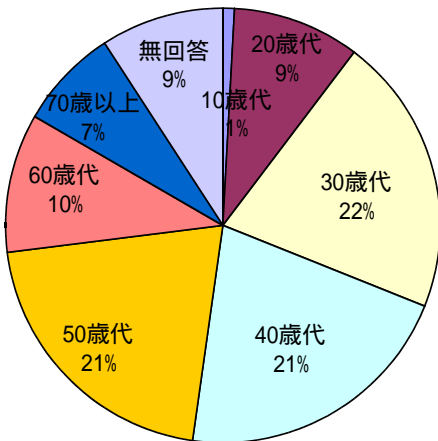
#### 1)性別



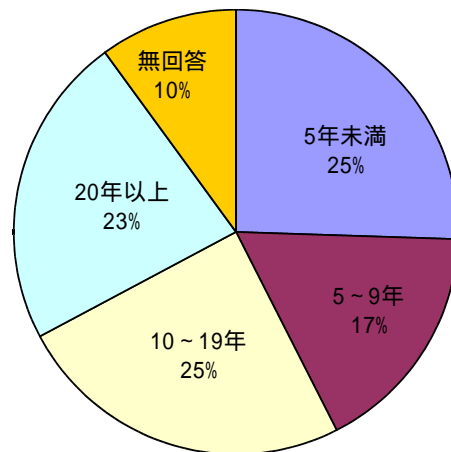
#### 4)居住地・自治会



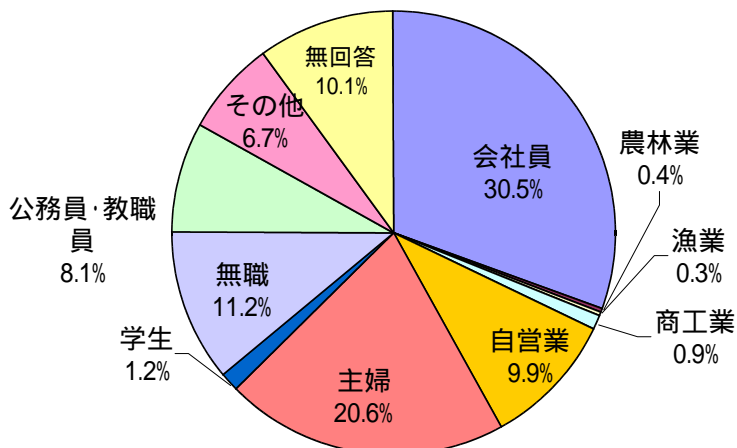
#### 2)年令



#### 5)居住年数



#### 3)職業

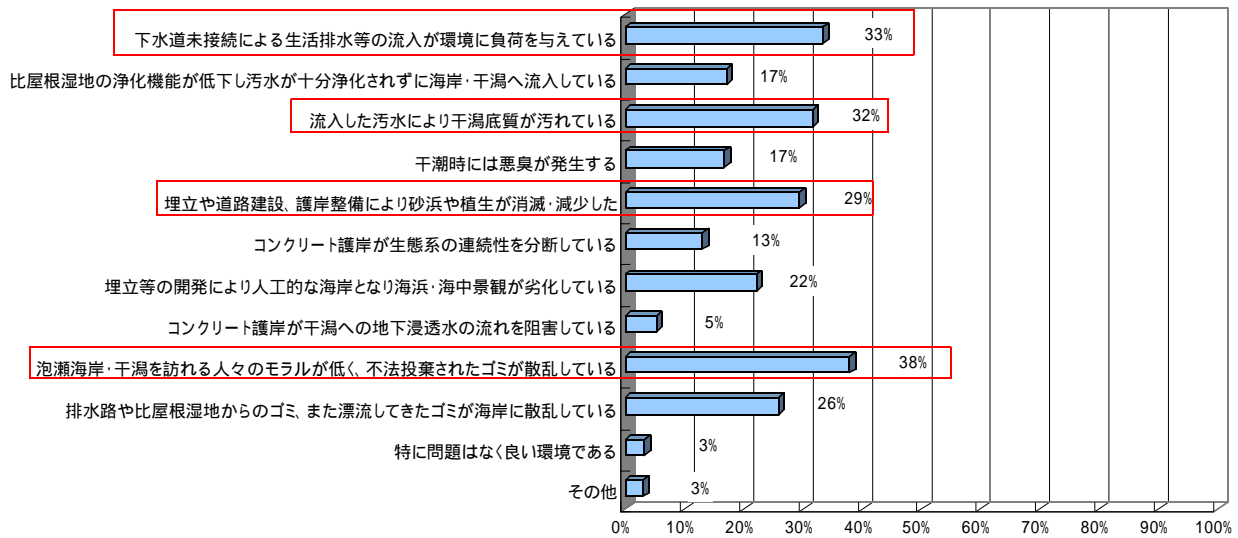


(2) 泡瀬地区海岸域の環境について

問 1 泡瀬地区海岸域における環境悪化の状況、又はその原因について、どのようにお考えですか。

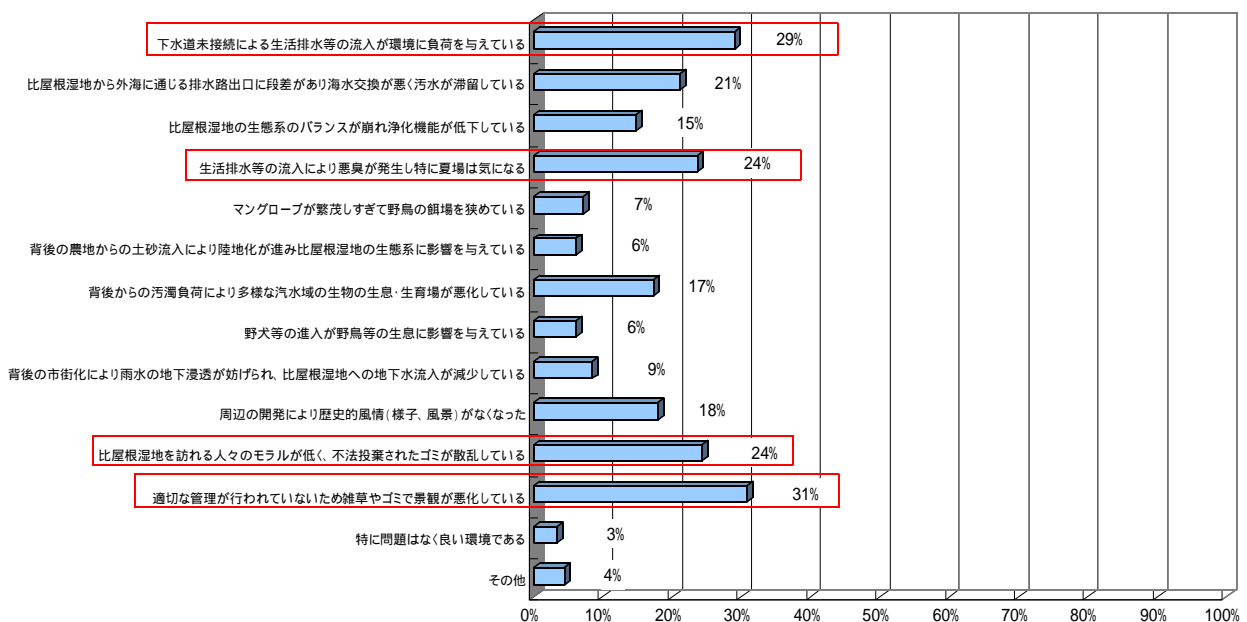
(1) 泡瀬海岸・干潟について (重要と思うものを3つ以内で選択)

泡瀬海岸・干潟の現状として、「ゴミの散乱」、「生活排水流入による水質や底質の汚れ」、「開発や海岸整備による自然環境悪化」の割合が高く、逆に「特に問題なし」とした割合は僅となっており、環境が悪いと捉えている住民が多い。



(2) 比屋根湿地について (重要と思うものを3つ以内で選択)

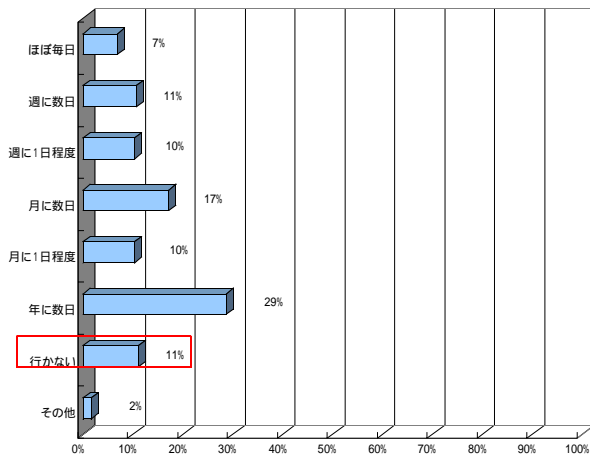
比屋根湿地の現状として、「生活排水流入等による水質や底質の汚れ」、「悪臭の発生」、「ゴミや雑草が多く管理が不十分」の割合が高く、また、海岸域と同様に「特に問題なし」とした割合は僅となっており、環境が悪いと捉えている住民が多い。しかし、その環境悪化が生物の生息・生育環境に対して影響があると感じている割合は比較的少ない。



## 泡瀬地区海岸域の利用について

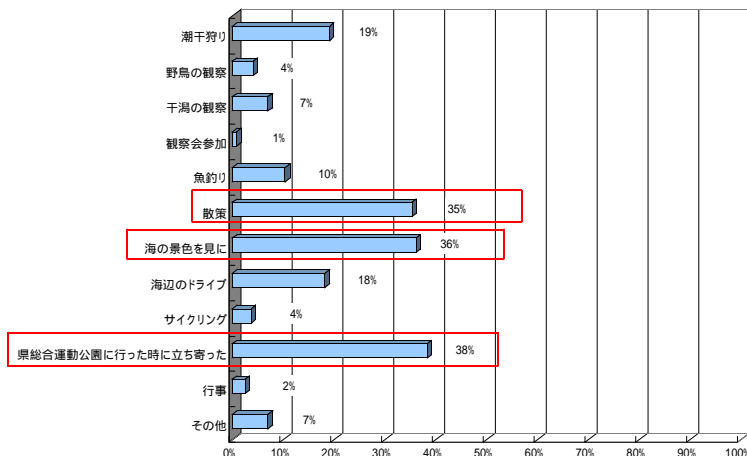
問2 泡瀬地区海岸域の利用についておたずねします。

(1) 泡瀬地区海岸域に行く頻度を教えてください。(1つを選択)



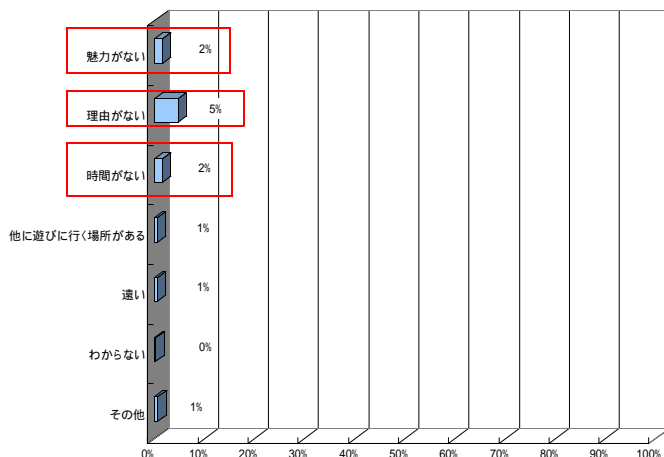
「行かない」の割合は低く、泡瀬地区海岸域に行き、何らかの目的で利用している状況となっている。

(2) 泡瀬地区海岸域に行く目的は何ですか。(3つ以内で選択)



行く目的は、「散歩」、「海の景色を見る」、「運動公園に行った時に立ち寄った」の割合が高い。逆に「潮干狩り」や「野鳥・干潟観察」等の自然利用に関連した項目の割合は低い。

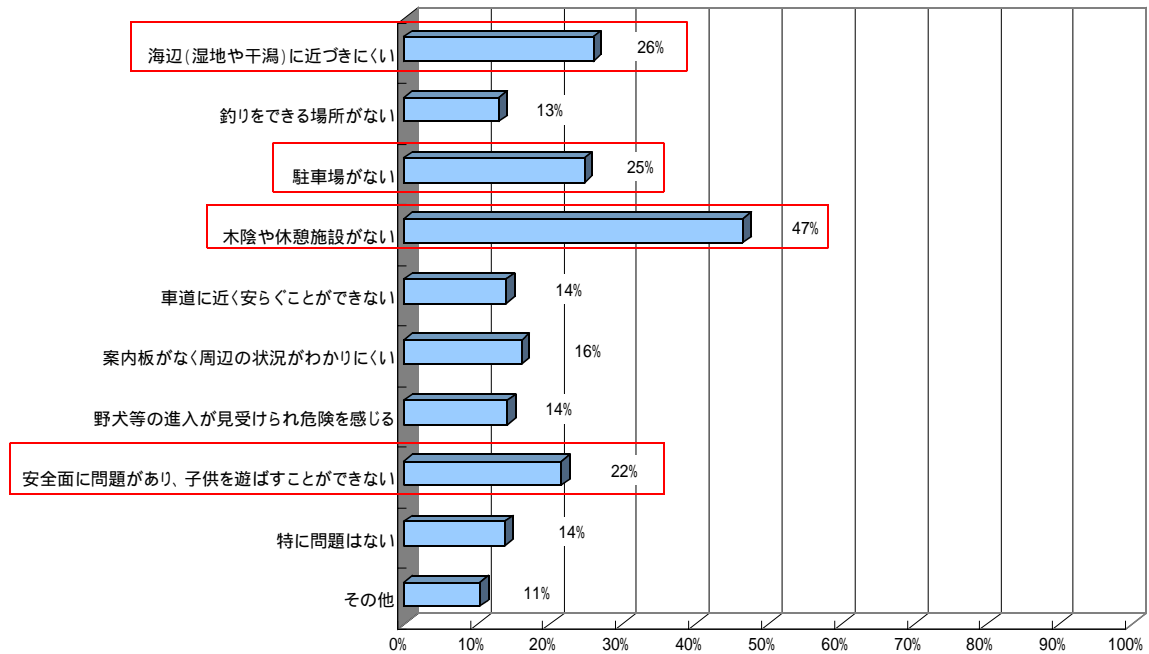
(3) 行かない理由は何ですか。(1つを選択)



「行く」の割合に対し、「行かない」の占める割合は僅かであるが、内訳を見ると、「理由がない」、「魅力がない」と関心の無さが理由となっている。

問3 泡瀬地区海岸域を利用した際の問題点について。(重要と思うもの1つを選択)

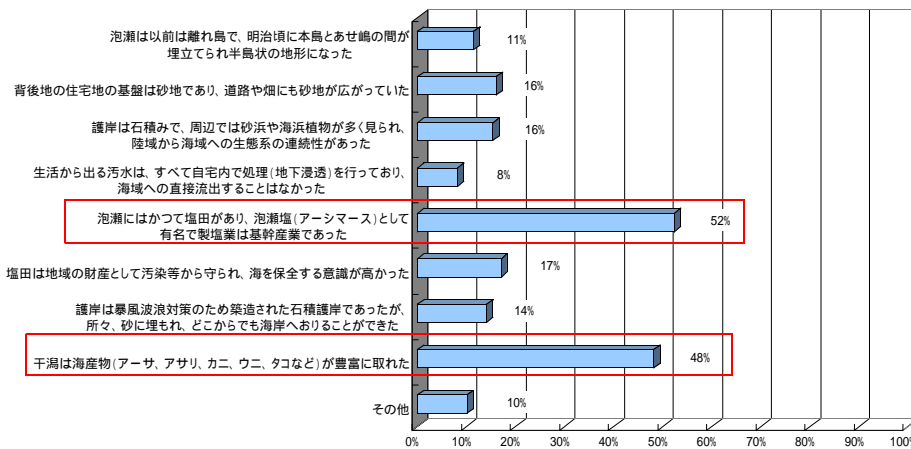
利用時の問題点として、「木陰や休憩施設がない」を約半数の住民があげており、その他「近づきにくい」、「駐車場がない」、「安全でない」の割合も高く、住民は現状を不便、危険と感じており、利用頻度が低い要因として利用面への配慮が十分でないことがうかがえる。



# 昔の泡瀬地区海岸域について

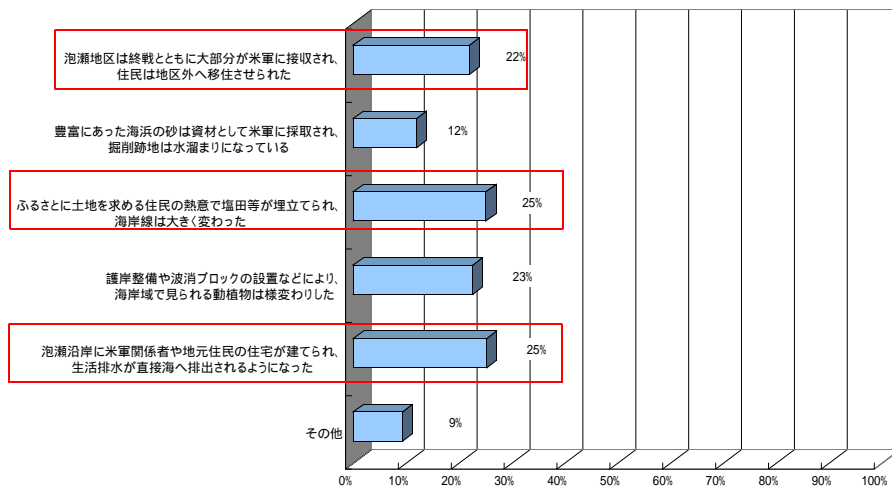
問 4 昔の泡瀬地区海岸域に関連することでご存じの事について(該当項目全てを選択)

## (1) 戦前(1945年以前) 原風景(泡瀬らしい風景)があった頃



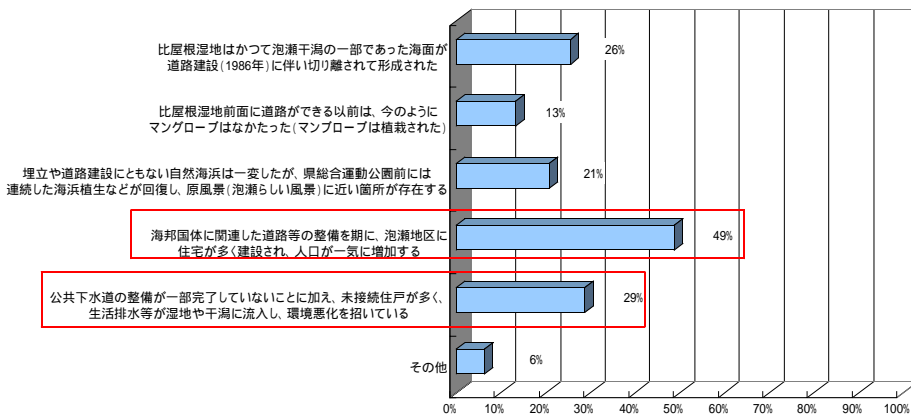
戦前(1945年以前)については、「塩田(製塩業)」、「豊富な海産物」等の割合が高く、泡瀬の海岸は生活と密着した大切な財産として位置づけられ、この頃はきれいに守られた泡瀬らしい原風景が広がっていたと考えられる。

## (2) 本土復帰(1972年)前後



本土復帰(1972年)前後については、各項目の割合に差はないが、「米軍による土地の摂取や開発」、「ふるさとに土地を求める住民のための埋立や海岸整備」により環境が変わりはじめた頃と住民が感じていることがうかがえる。

## (3) 海邦国体(1987年)前後



海邦国体(1987年)前後については、「道路等の整備を期とした人口増加」、「下水道未接続世帯からの生活排水の流入による環境悪化」の割合が高く、地域の市街化が進展し、環境への影響が生じていると住民は感じていることがうかがえる。

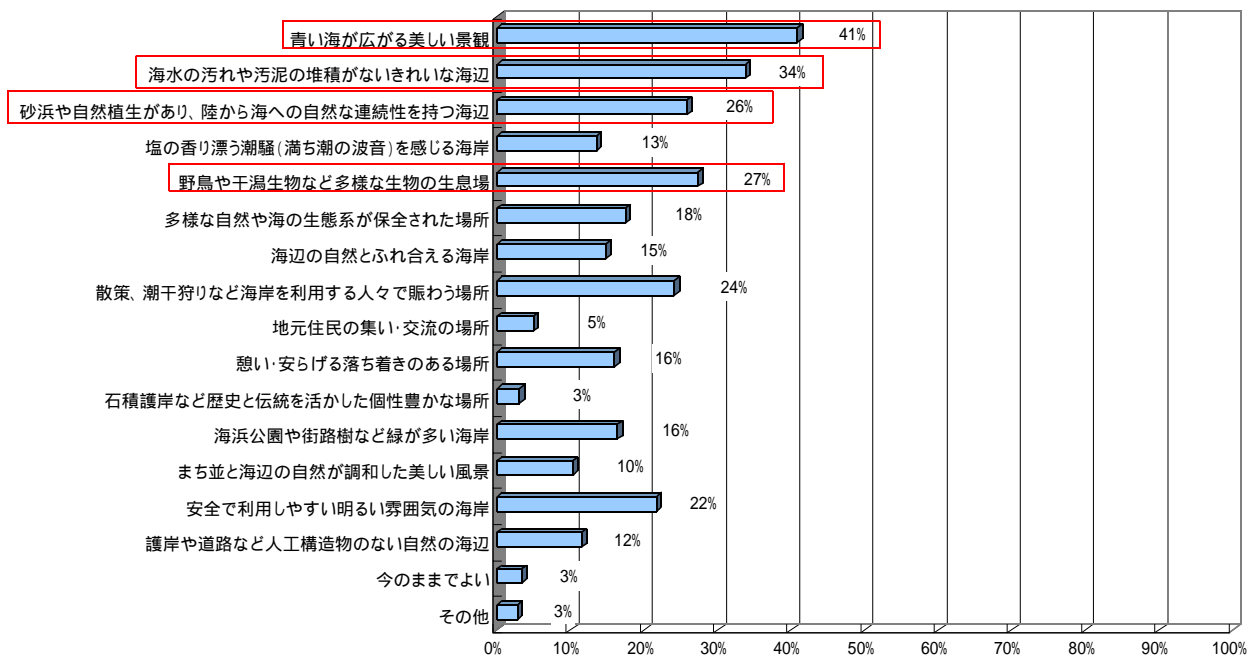
## 泡瀬地区海岸域の将来像について

問5 将来の泡瀬地区海岸域はどのようなイメージの場所であってほしいと思いますか、またどのようなことを期待しますか。

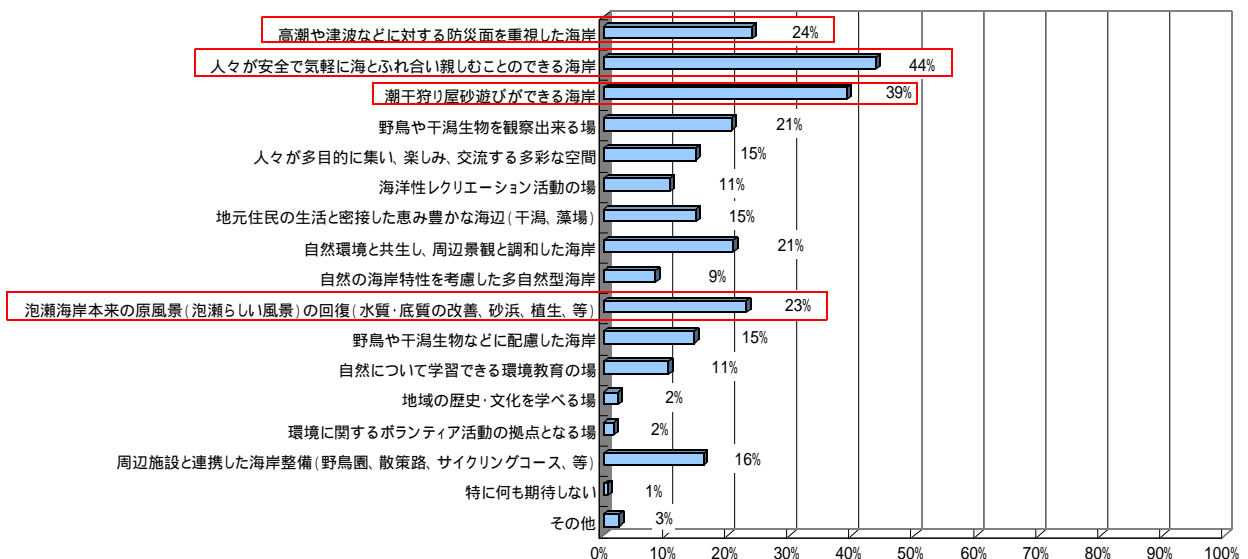
将来のイメージは、「青い海が広がる美しい景観」、「汚れのないきれいな海辺」、「多様な生物の生息場」、「自然な連続性を持つ海岸」等の割合が高い。また、期待することは、「ふれ合い親しめる海岸」、「潮干狩りや砂遊びができる海岸」、「泡瀬海岸本来の原風景の回復」等の割合が高い。

環境が悪化し利用面への配慮が十分でない現状に対し、美しく自然豊かな泡瀬らしい海岸にし、その自然とのふれ合いや海岸を利用したいと願う思いがうかがえる。

### (1) 泡瀬地区海岸域の将来のイメージ。(3つ以内で選択)



### (2) 泡瀬地区海岸域に期待すること。(3つ以内で選択)



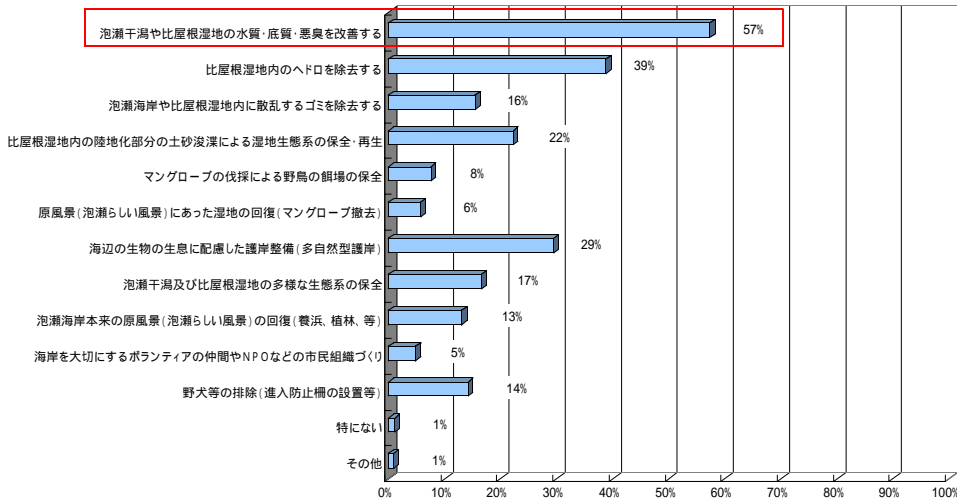


# 泡瀬地区の海辺づくりへの意見・要望について

## 問6 泡瀬地区海岸域をよりよくするための取り組み等について

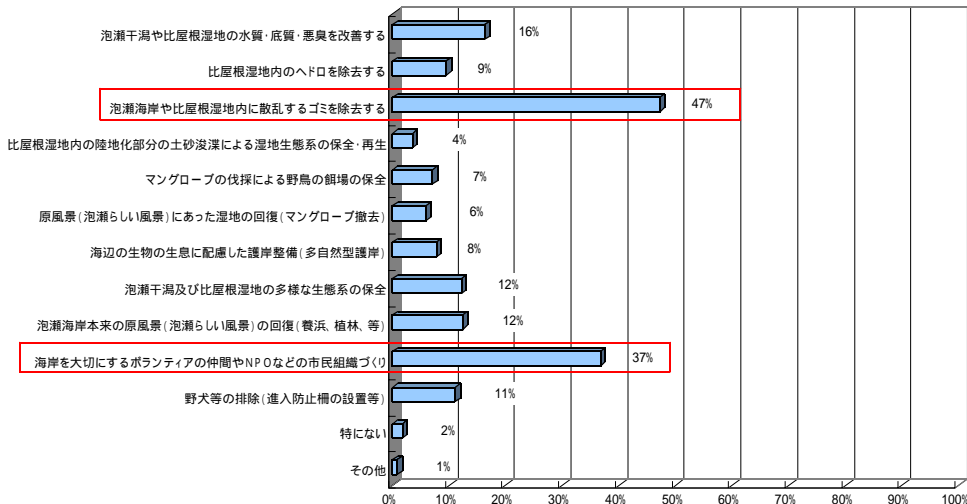
(1) 行政や市民はそれぞれどのような事に取り組めばよいか。(重要と思うものを3つ以内で選択)

### (1)主に行政が行うこと



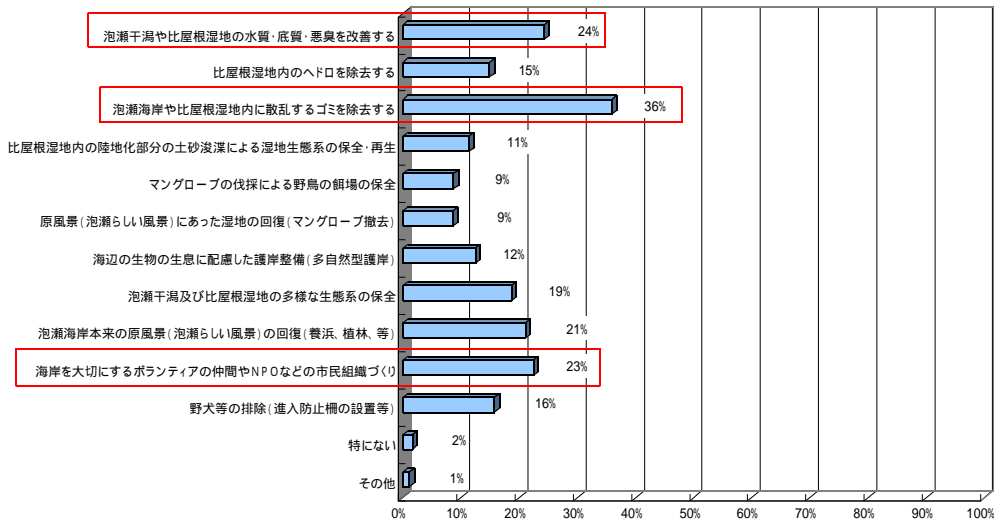
よりよい海辺づくりのための取り組みは、行政が行うことは、「水質・底質・悪臭の改善」が約6割と圧倒的に多く、主な原因である排水対策の実施が望まれている。

### (2)主に、市民が行うこと



市民が行うことは、「ゴミの除去」、「市民組織づくり」の割合が高く、市民活動で可能な範囲の取り組みをあげている。

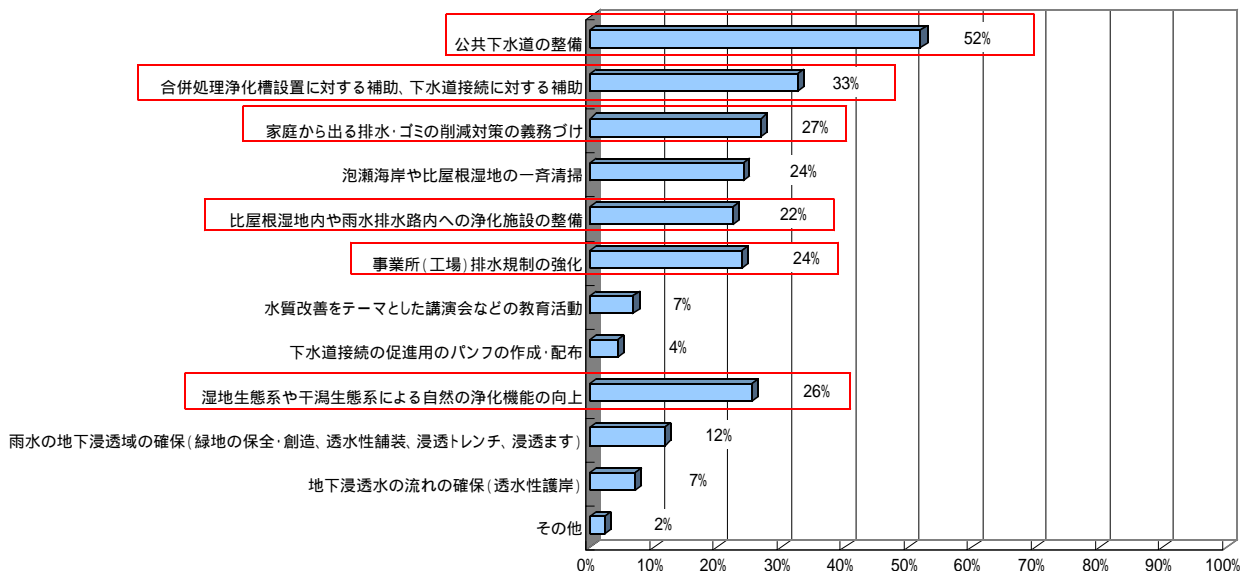
### (3)行政と市民が連携して行うこと



行政と市民が行うことは、「ゴミの除去」、「水質等改善」、「市民組織づくり」が多く、双方で求められた取り組みは、共に連携・協力しながら進めていくための組織づくりを望んでいることがうかがえる。

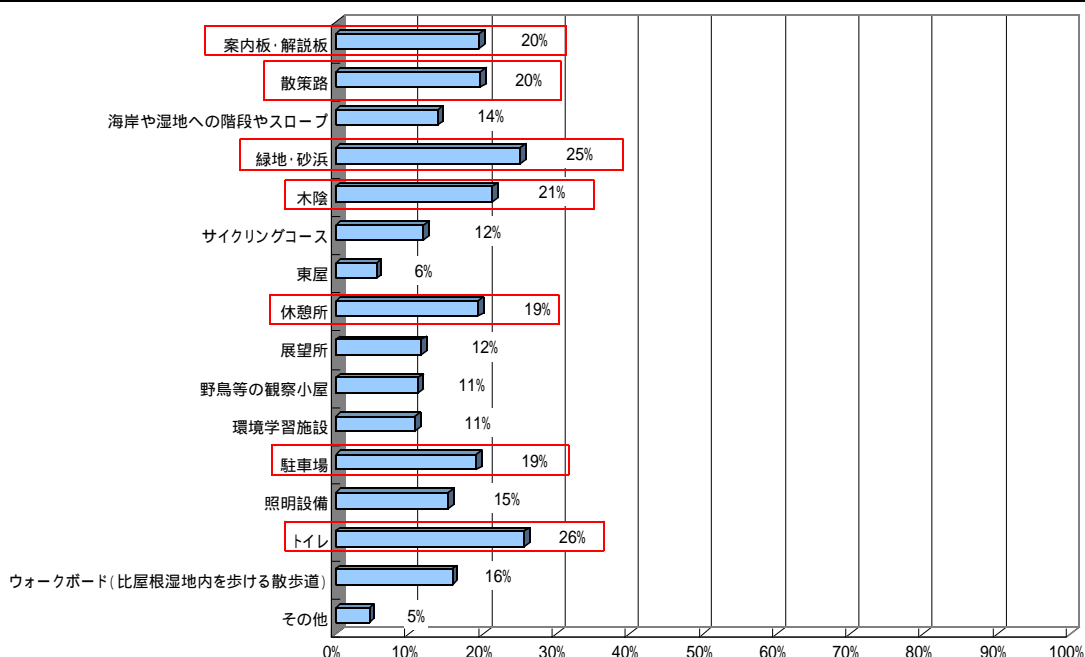
(2) 行政が行う水質浄化等の水環境対策(施策)としてどのようなものを期待しますか。(3つ以内で選択)

水質浄化対策としては、「公共下水道の整備」が圧倒的に多く、続いて「下水道接続等に対する補助」、「家庭からの排水削減対策の義務づけ」、「事業所排水規制の強化」の割合が高く、排水を流さないような対策が良いと考えていることがうかがえる。また、「湿地や干潟の自然浄化機能の向上」、「比屋根湿地等への浄化施設整備」の割合も比較的高く、自然の力を利用した浄化も対策の一つとして有望と考えていることがうかがえる。



(3) 泡瀬地区海岸域にあったら良いと思う施設は何ですか。(3つ以内で選択)

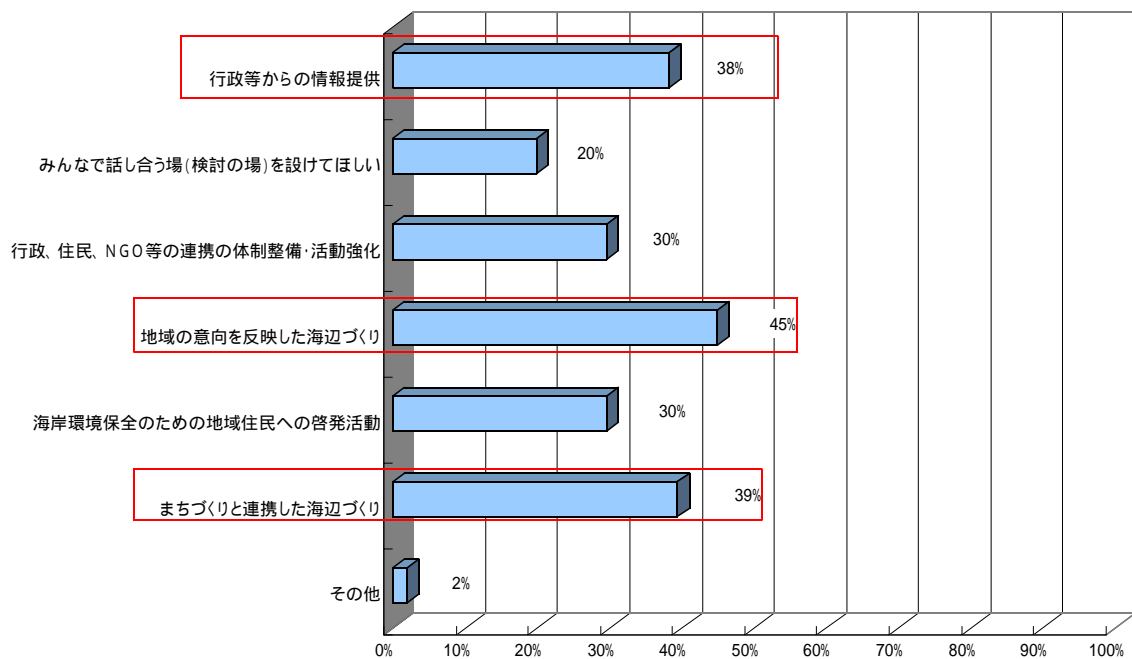
あると良い施設は、「緑地・砂浜」、「トイレ」が多く、続いて、「木陰」、「散策路」、「駐車場」、「案内板」、「休憩所」となっており、住民が利用時の問題点と感じている不便さや、行く目的で割合の高い「散策等」を反映した結果となっている。



## 泡瀬地区の海辺づくりへの住民参加について

問7 泡瀬地区の海辺づくりへの住民参加において、必要なことは何だと思えますか。  
(3つ以内で選択)

海辺づくりへの住民参加で必要なこととして、「地域の意向を反映した海辺づくり」、「行政等からの情報提供」、「まちづくりとの連携」の割合が高く、海辺を含めたまちづくりに対して関心が高く、また、海辺づくりを進めるにあたっては関連情報の提供を強く望んでいることがうかがえる。



## その他意見・要望について

問 8 以上のほかに、泡瀬地区海岸域における現状や今後の行政の取り組みについて、ご意見やご要望などありましたら、教えてください。

ここでは比屋根湿地・泡瀬地区海岸の環境整備に関する意見を記載しています。

環境の現状や、海辺づくりへの取り組みに関する意見が多く、特に「ゴミ散乱」、「水質悪化」、「悪臭」を問題と感じ、これら問題点の改善を強く望んでいることがうかがえる。

また、泡瀬地区の環境に関する情報提供（インターネット、掲示板等）や、行政の環境改善への取り組みに対する不満、要望（特にゴミ対策、下水道接続対策）が多く行政の取り組みを強化し、市民と連携した海岸づくりを望んでいることがうかがえる。

### （１）泡瀬地区海岸域の環境について（１０件）

- ・ 海岸域はゴミ等が多い。環境問題意識を持つような集会、情報提供等を望む。
- ・ 湿地内のごみや悪臭対策を望む。夏場は特に悪臭の強さに悩まされている。
- ・ 潮干狩りをして臭くて食べられない。
- ・ 沖縄の海のイメージがこわれた。特に泡瀬の海は下水排水により悪臭がひどい。ゴミも多い。

### （２）泡瀬地区海岸域の現状及び今後の利用について（４件）

- ・ 潮干狩り等ができる場として利用したい。
- ・ 周辺施設等を考慮しながら散策等ができるような海岸整備をしてほしい。

### （３）泡瀬地区海岸域の将来像について（９件）

- ・ 悪臭やゴミの散乱をなくし、美しい場所にしたい。
- ・ 子供達が安心して泳げるほどのきれいな海になってほしい。
- ・ 海、砂、渡り鳥、小さい生き物等と地球を共存できる癒しの場となってほしい。
- ・ 西の北谷、東の泡瀬で子供から老人まで楽しく快適に過ごせる場所にして欲しい。

### （４）泡瀬地区の海辺づくりへの意見・要望について（３４件）

- ・ 比屋根湿地、周辺のゴミの散乱に対する整備、水質改善に対する対策。休憩所やトイレを作ってほしい。近くに交番が必要。
- ・ インターネット等を通して情報提供し、掲示板等を設け議論の場を提供してほしい。
- ・ きれいな海づくりに行政はもっと力を注いで欲しい。
- ・ 下水道接続対策として自治会でチェックして各指導員や罰則を加えると良いと思う。
- ・ 行政や一部企業などで進めず一般市民と未来の事も考えて整備活動してほしい。
- ・ 自然を無くすのではなく、自然を生かした環境作りを早めに行ってほしい。
- ・ 台風でも波立たないののでテトラポットの代わりに植木（リュウキュウマツ等）をした方が良い。
- ・ 市税を圧迫しないよう、長期的に見て利益のある海辺づくりをしてほしい。

### （５）泡瀬地区の海辺づくりへの住民参加について（３件）

- ・ 野犬侵入、不審者の休憩所占拠の問題点について市に要望したが変化なし。湿地帯などのゴミ拾いなどは市が先頭に立たないと住民参加はないと思う。
- ・ ごみ拾い用袋を役場で無料配布してほしい。ボランティア等にも配布して見ては？

## 2. ヒアリング調査

### 2.1 調査内容

住民意向調査の一環として、比屋根湿地・泡瀬地区海岸に関する意見・要望を把握するため、比屋根湿地及び泡瀬地区海岸の利用者や関わりの深い団体（個人）、また地域住民の代表等を対象にヒアリングを実施した。

地域の現状や住民意見（アンケート結果等）を参考にいただいた上で、環境面や利用面の問題点及び改善策等について、意見・要望を聴取・把握し、今後の住民意見等を反映させた環境整備の検討に活かすことを目的として実施した。

### 2.2 実施期間

平成17年 1月20日～

### 2.3 ヒアリング対象者

現状を良く知る方々の的確な意見、或いは地元住民を代表する集約された意見として、その聴取・把握が期待できる以下の方々をヒアリング対象者とした。

- ・比屋根湿地及び泡瀬地区海岸を利用している団体（個人）
- ・当該地区と関わりが深く何らかの影響を受けている団体（個人）
- ・当該地区に隣接して居住する住民の代表等（関係自治会、泡瀬復興期成会代表等）

#### ヒアリング対象者一覧

区 分	名 称
N P O等団体	NPO法人 バリアフリーネットワーク会議
	沖縄市立郷土博物館友の会
	沖縄県鳥獣保護員
	沖縄野鳥の会
	鳥類研究所
	泡瀬干潟を守る連絡会
	沖縄 海と渚 保全会
	やんばるエコツーリズム研究所
	(社)沖縄青年会議所
	プライド泡瀬
	泡瀬の干潟で遊ぶ会
	沖縄市漁業協同組合
	地域住民代表
高原自治会 自治会長	
比屋根自治会 自治会長	
与儀自治会 自治会長	
泡瀬復興期成会	

## 2.4 ヒアリング事項

比屋根湿地及び泡瀬地区海岸について以下の観点からヒアリングを実施し、意見・要望を把握した。

### ヒアリング事項

- ・住民意見（アンケート結果）を踏まえた環境整備への意見
- ・環境面や利用面の問題点
- ・望ましい環境像
- ・整備のあり方
- ・具体的な改善策（要請事項）

## 2.5 ヒアリング調査結果

### ヒアリング結果（意見・要望）（1 / 7）

項目		内容
環境面の 問題点等 について	比屋根湿地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地に流入する雨水や生活排水、工場廃液で水質・底質が悪化。</li> <li>・湿地と海外を結ぶボックスカルバートが土砂で詰まり海水交換が悪い。</li> <li>・水質や底質の汚れはヨシ原の拡大、ヒルギ類の繁茂に起因している。</li> <li>・旧米軍住宅地域の浄化槽（集合処理施設）が老朽化して、降雨時に流れ込む表流水とともに汚水が溢れ出し、雨水幹線を通して比屋根湿地に流れ込んでいる。地域の雨水処理を何とかして欲しい。</li> </ul>
	悪臭	・住宅に隣接しており、悪臭等の苦情がないか気になる。
	生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨシ原の拡大やヒルギ類の繁茂で湿地面積が減少し、野鳥等の生物生息に影響を与えている。</li> <li>・平成5年頃に、ノコギリガザミの養殖場として条件整備のために、沖縄市と市漁業協同組合はヒルギを植えた。</li> <li>・湿地内に生息する生物の生息環境を調査する必要がある。</li> </ul>
	赤土	・背後陸域からの赤土等土砂の流入。
	ゴミ	・一般的にモラルの低下、関心のなさが比屋根湿地周辺のゴミの散乱などに見受けられる。
	泡瀬海岸	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後陸域からの雨水や生活排水、工場廃液で水質・底質が悪化。</li> </ul>
	悪臭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泡瀬小学校前の排水路（泡瀬第一雨水幹線）から悪臭がある。</li> <li>・排水が絶え間なく流れ、護岸付近で悪臭さえ発生。</li> </ul>
	生物	・現在の環境では生物は減少していく状況だと思う。
	ゴミ	・海岸全体にゴミが散乱している。
	景観	・テトラポット、ゴミ散乱は海岸の景観を悪くしている。
	意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察すると沖合に行く程、背後陸域からの汚水がきれいになってくる。いかに干潟の浄化作用が環境を良くしているかを我々は認識しなければならないと思う。</li> <li>・泡瀬海岸に悪い事例のメッセージ（危険、汚いと掲示）があり、住民等の意識はさらに離れていくので問題。</li> <li>・排水や散乱ゴミで汚れているのは誰かという意識が足りない（加害者でもあり被害者でもある）</li> </ul>

ヒアリング結果（意見・要望）（２／７）

項目		内容	
利用面の 問題点等 について	比 屋 根 湿 地	利便性	・利用を想定して整備してないので、特に障害者などは利用しづらく感じる。現状では十分に活用ができず、安全面も問題がある。
		観察	・観察施設（観察小屋等）を設けてほしいが、費用面で本格的な施設が難しいのであれば、雨や日射しをさける東屋を設けてほしい。 ・自然観察の際、汚水やゴミの散乱等のため、良い気持で見られない。
		施設	・海岸干潟や湿地は、自然環境の中でも最も厳しい条件の生態系を形成している場である。過度の設備を設置する必要はない。
	泡 瀬 海 岸	利便性	・野鳥観察の場に利用されているが、便利とは言えないが、特に支障もない。野鳥観察以外では、海岸沿いの利用者にとっては、車を止めにくい状況等で不便ではあると思う。
		観察	・観察施設（観察小屋等）を設けてほしい。
		緑陰	・海岸線には緑陰や休憩施設がない。
		親水性	・テトラポット等があり海岸に近づきにくい。
		管理	・沿岸の既存施設（障害者用トイレ等）の維持管理が不十分。
望ましい 環境像に ついて	環境	・干潟は何にも設備がいない天然の公園である。生物の揺籃の場であり、人が遊べる貴重な場所である。エコツアーの場としても適切。そのため生物多様性を保持する必要がある。 ・干潟や湿地や、年々浄化能力が衰え、環境改善に取り組まないと現況では悪くなるばかり。地元の考えは、泡瀬地域の発展のために諸事業を推進し、それと併せて環境整備をお願いする。 ・埋立計画がある環境像は望ましくない。 ・海は生活と結びついており、豊かな海を通して良好な社会が形成されるよう望む（情操教育の場）。	
	利用	・市街地に隣接する干潟は財産。エコツアーなど、住民が主体となって利益をもたらす仕組みを工夫する必要がある。地域振興に供せられる部分が干潟そのものにあると思うが、干潟を失うとマイナスではないか。 ・潮干狩り、自然観察、水泳等をできることが望ましく、木陰や休憩施設があると一帯の利用価値は高まる。 ・良い自然があり、基本的に守るのは当たり前で、どこを守るか明確にしメリハリを付ける。良い自然を皆で使用できるようにすることで付加価値が高まる。利用のルールとハードが必要。 ・北谷町美浜地区のようなオープンな駐車場があれば、多くの人利用ができる。 ・環境教育の場として利用。 ・行政と住民が連携・協力して、周辺（県総合運動公園等）と一体となって公園化し、その後の管理を行う。	
	原風景	・参考にする原風景とは何か、何を復元するのか考える勉強会や講演会が必要で、美しい自然のある泡瀬の将来イメージを作り上げるヒントになる。	

ヒアリング結果（意見・要望）（3 / 7）

項目	内容
整備のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体だけで整備・管理するのは財政上厳しい。自治体が関係方面に呼びかけ組織化してはどうか。非営利の民間団体の組織化、育成の促進も考えられる。</li> <li>・小規模な実験工事やモニターしながら、ゆっくりとした長期計画（5年～10年）で整備する必要がある。</li> <li>・住民、行政、企業がパートナーシップを持って取り組めるよう、各主体の役割を明確にした整備計画がほしい。</li> <li>・下水道接続等の推進を図り、比屋根湿地及び泡瀬海岸の周辺整備を急ぎ足を運べるような環境を整えることで関心が持てるようになる。</li> <li>・地元の意見を最大限尊重してほしい。</li> <li>・泡瀬3丁目付近一帯は地盤が低く住宅が近いことから、地震や津波にも配慮した護岸を作ってほしい。</li> <li>・山、川、海とつながる自然の循環システムを考慮した整備が必要。</li> <li>・生物や景観等に配慮して海岸整備しても、前面に人工島が出来ると意味がなくなる。</li> <li>・人工的な整備はどこか無理があり、景観も美しくない。自然の力、自然の機能を活かす。</li> </ul>
水質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道接続につながるような意識啓発を図る必要がある。</li> <li>・現状は水質（BOD、COD）はどの程度か、また目標とする数値はいくらか具体的に示す必要がある。</li> <li>・汚濁流出源等の現状や大雨・台風時の流量を把握し、流入の仕組み、土砂運搬等の原因究明をする。</li> <li>・中城湾に面する9市町村が連動した考え方で水質改善が必要である。</li> </ul>
生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比屋根湿地の整備により、周辺の自然環境（泡瀬通信施設や県総合運動公園前湿地等）とともに、一帯が野鳥の飛来地・生息地としての役割を果たすと考えられ、野鳥観察ルートが形成される。</li> <li>・環境整備にあたっては、現状の野鳥等の生物生息環境の保全・再生を考慮した環境整備を行う。</li> <li>・自然の中での本来ありうる姿が人の圧力で少し歪んでしまった状況を、人の助けで少しでも自然に近づけるような支援、沿岸干潟ビオトープを進める必要がある。</li> <li>・環境整備により生物は再生していくと思う。</li> <li>・比屋根湿地のヨシ原やヒルギ類の取り扱いは、生態学的には群落遷移の進行に委ねるという考え方もある。環境教育や自然観察を目的に保存してきた経緯も考慮し、生態環境回復や現状保全等の対策を学識者、住民、行政で協議すべき。</li> <li>・陸と海を行き来する生物もいるので配慮してほしい。</li> <li>・渡り鳥のネットワークのポイントであり、グローバルな視点が必要。</li> <li>・「生物に配慮した海岸整備」と「原風景」は、自然の循環（良い要素）をどのように活かせるかが大切。埋立事業があれば活かすことはできない。別の問題が発生する。</li> <li>・利用との整合が必要（降りれるようにするとマングース等が侵入する）。</li> </ul>



ヒアリング結果（意見・要望）（４／７）

項目	内容
整備のあり方について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全で、憩えるような休憩所、動植物が観察できるような施設など子供達に関心の持てるような資料館等の整備が出来ればより有意義な利用がなされると思う。</li> <li>・「危険だから」では何処へも行けない。自然には安全なところは無く、観察することで体験的に危険を察知する力を持てると考えている。</li> <li>・案内板や掲示板による情報発信があれば利用者は便利と思う。</li> <li>・ユニバーサルデザイン、バリアフリーを考慮した整備。</li> <li>・簡易的な観察施設を造って、モニタリングして徐々に改善・充実させる。</li> <li>・環境面と防災面を考慮しながら、出来るところは例えば海中道路のように親水性のある護岸で整備してほしい。</li> <li>・野鳥観察等の場に利用する際は周辺住民のプライバシーに配慮すべき。</li> <li>・湿地利用の際は降りない方がよい。踏み荒らされ次の観察者が困る。</li> </ul>
住民参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一方的な整備工事が行われないう、地域の意見も取り入れ、地域の必要とする整備事業をお願いしたい。住民代表として、より良い環境づくりに向けてその都度真剣に考え、地域の皆様への周知に努めていきたい。</li> <li>・行政まちでなく住民主体で計画を立て、実際に考えた取り組みを実践し、行政しか出来ないことは具体的に要求していく方法がよい。行政を動かすきっかけになる。</li> </ul>
啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下水道接続につながるような意識啓発を図る必要がある。</li> <li>・市作成のパンフ配布方法など広報のあり方を見直す。また、公平な立場（例えば、FMチャンプラ等の地域メディア）から情報を伝える。</li> <li>・環境整備にあたっては、地域の環境や開発の経緯を地元住民に正確に伝え、啓発していく必要がある。</li> <li>・今後の状況も踏まえ、水質・底質等の予測結果を示すべき（人工島により生ずる外部の影響を提示すべき）</li> <li>・地元、行政、関係機関・団体等の利害関係を整理し、どのように合意形成を図るかが大事。摩擦するより理解し合うことを期待して話し合う。取り組みの優先順位を付け、だめな場合は次の策をとる（反省しやすい）。</li> <li>・環境整備にあたっては、説明会や意見交換会を何度も行い、一人一人が理解できるような対応がほしい。専門家や住民など様々な人に意見を聞く必要がある。</li> <li>・環境整備（ハード面）を円滑に進めていくためにも、住民の意識向上を図る必要がある。</li> </ul>

ヒアリング結果（意見・要望）（5 / 7）

項目	内容
具体的な改善策や取り組みについて	<p>水質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能性が高い方策として、流入排水を一時沈殿させる大きな溝（浚渫のできる貯水池等）を設け、越流する清水が湿地に流入する構造にする。</li> <li>・比屋根湿地周囲に3m幅の水路を掘り、海水を湿地全体に循環させる。そのため土砂で埋もれ機能していない北側の管渠（ボックスカルバート）を広げ改善する必要がある（海水交換を良くする）。</li> <li>・比屋根湿地で排水の滞留浄化が考えられないか。</li> <li>・下水道整備の促進や、ヘドロの除去が考えられる。</li> <li>・行政は、湿地や干潟の水質調査により、汚れの状態を監視し広く市民に協力と理解を深めるよう努力する。</li> <li>・水質浄化対策として、排水路底面に砂利等を敷き詰め、また水路を設けるなど浄化機能を持たせる。</li> <li>・下水道事業及び接続の促進。</li> <li>・湿地や干潟を汚す生活排水を住民が流していることを認識させ、自ら改善方法を考えるようにする。</li> <li>・水質改善にはEM、土壌菌を利用する方法があり、県内河川でも試みられている。</li> <li>・水質等改善策を実施しても、改善しなかった場合の次の策を検討しておくべき。</li> <li>・陸と人工島の間水路ができると比屋根湿地への海水の出入りがうまく出来なくなる。</li> <li>・排水路から出口まで、小さい箇所でも生物が関わるよう自然再生的に改善する。排水路の床（少なくとも）や側壁をはぎ取り自然にする。</li> </ul>
	<p>生物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒルギ類やヨシは、伐採して泥干潟の面積を増やす必要がある。湖面が広がると水取りの飛来が増す。野鳥の隠れ場として、部分的には残す。</li> <li>・ヒルギ類の取り扱いを考える前に、湿地の変遷を調べる必要がある。</li> <li>・湿地生物（ゴカイ、カニ類）の生息環境の詳細調査を踏まえ、適切な方策（面積拡大等）を実施する。</li> <li>・湿地本来の姿に戻し、動植物の生息条件の監視と処置手段の準備と維持管理が必要になる。そのためにも施工季節や施工速度も生物の要請からの制約、また人や動物の立ち入りの制限等も考慮されるべき。</li> <li>・生物生息や原風景を考慮する際、均一的な人工物をやめること、いつの時代が原風景かが問題。生物の多様性が最も顕著な状態を基本にしたものが良いと思われる。</li> <li>・比屋根湿地周囲に水路を設けると、マングース等の侵入防止対策になり、モクマオウ等の樹林拡大防止にもなる。</li> <li>・閉鎖水域、ヨシの拡大、陸地化、ヘドロの堆積と悪循環になっており、海水を循環させることで改善できると思う。</li> </ul>
近自然工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変化のある海岸、砂の堆積を促すため石の配置や植栽を工夫する。砂の堆積によって植生が回復し、海岸は変化に富んだものになる。</li> </ul>
野犬等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野犬、野猫、マングースの対策が必要。</li> </ul>
赤土	<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後陸域からの赤土等土砂の対策が必要。</li> </ul>

ヒアリング結果（意見・要望）（6 / 7）

項目	内容
具体的な改善策や取り組みについて	<p>景観</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泡瀬海岸のテトラポットは沖縄県議会に撤去の要請を行い採択されたいきさつがある。</li> </ul>
	<p>利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「前之浜」は泡瀬のシンボルであり、地域行事や様々な利用がある。浸食され樹木が流されたりしているのので、対策をお願いする。泡瀬地域（砂地）に適しているガジュマルやアコウ等を植えて欲しい。</li> <li>・海岸線は「泡瀬の塔」に東屋とわずかの緑陰があるだけで、植栽等が必要である。</li> <li>・住民意見の「駐車場がない」については、県総合運動公園の駐車場を利用できると思う。</li> <li>・野鳥観察では野鳥に配慮するため、目隠しとして塀を作り覗き穴から観察するもよし、フクギ等の低木を列植して隙間から観察しても良い。</li> <li>・湿地に張り出しを造り観察できるようにしてはどうか。湿地内に木道や空中ゴンドラを設置してはどうか。</li> <li>・沿岸の既存施設はバリアフリーの視点が不足している。ハード面（身障者用駐車スペース等）ソフト面（管理運用）で改善が必要。</li> <li>・野鳥観察施設は造らなくても良いのでは。むしろ景観を損ねる。</li> <li>・野鳥のイラストや解説、季節毎や歴史的な情報板を設ける。</li> <li>・湿地は、生態系のつながりや海へ果たす役割（浄化機能）の説明がしやすく、環境学習の教材として利用したい。</li> <li>・護岸沿いの駐車場をオープンにすると、利用者や観光客等の受け入れ態勢が整い、活性化につながる。</li> <li>・海岸沿いにトイレを数箇所設置してほしい。</li> </ul>
	<p>親水</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テトラポット等を撤去し、対岸の県総合運動公園前のようにしてほしい。養浜し自然に海岸に降りられるようにする。海が見え植物が生える。</li> <li>・泡瀬海岸は、安全で安心して水辺に降りれるよう段差を緩やかにし砂浜を造る。住宅地域との境界は防風林等を植栽する。</li> <li>・比屋根湿地に遊歩道、休憩所、観察場所を設けるなど周辺から見るだけでなく、湿地に入れるようにする。</li> </ul>
<p>ゴミ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当面は管理をしっかり行った方がよく、例えばフェンスで囲みゴミを投げ捨て出来ないようにする。</li> <li>・周辺と連携し全体で環境美化に取り組む。まちがきれいになれば、海岸も良くなる。初めは行政が先頭に立ち、徐々に住民が主体となって、商工会、社会福祉協議会、観光協会、青年会、行政を含めた活動に広げる。</li> <li>・地元団体（泡瀬復興期成会）が3月の行事を前に海岸清掃を実施している。このような活動が、地域住民主体で自治会やPTA等も含めて全体に広がっていくと良い。</li> <li>・個々の活動ごとに行政へ協力をお願いするのではなく、地域の取り組み全体について協力要請すれば、行政も対応しやすいのでは。</li> </ul>	

ヒアリング結果（意見・要望）（7 / 7）

項目	内容	
具体的な改善策や取り組みについて	原風景	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原風景を参考にする考えは、再現することは難しいので、近い環境が回復しているプール前の湿地をポイントで残す。道路で仕切られる前は、マングローブは印象に残らない程で、植生の中心ではなかった。とにかく生物は豊であった。</li> </ul>
	啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各工事段階を詳しく説明し、ピオトープを住民へ理解させることが必要である。</li> <li>・下水道未接続世帯への啓蒙活動として、各自治会での取り組みが必要。</li> <li>・環境問題意識向上を図る運動等。</li> <li>・住民の意識啓発、利用者のモラル向上が必要。利用が増えれば、大事にしようとする考え方は広まる。守るだけではきれいにならない。</li> <li>・各地域で、環境問題や取り組みについて考える勉強会をもってはどうか。その中で必要な情報を提供する。</li> <li>・現状の環境の評価・位置づけを行い、情報の開示・共有を行い、皆で十分に議論する必要がある。</li> <li>・啓発の仕方、メッセージの送り方を工夫する必要がある。良い環境があるから皆で守って、環境悪化に取り組み、利用のマナーも良くしましょう、という啓発の仕方が良い。</li> <li>・住民意向把握のために実施したアンケート及びヒアリングの結果や、それがどのように活かされているのかを報告する義務がある。</li> <li>・現地を体験させることで関心が深まり、環境を良くする意識が高まる。汚すのは意識が低いからで、関わりながら、皆でどう取り組むか考えるには環境学習（社会教育や学校教育の場で実施）が必要で効果的である。</li> <li>・現地だけではなく、地域全体で足下から啓発を図る（総合学習活用）</li> </ul>
	組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政、市民、NPO等による組織を具体化し、議論してアイデアを提案する。</li> </ul>
維持管理について	組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政で対応が難しければ、民間委託してはどうか。NPOとして組織化する案もある。</li> <li>・地元団体（プライド泡瀬）はランドワーク協会に加入した。地元、行政、企業と協力・連携して自然再生、維持管理に取り組んでいく、ピオトープ型の事業の推進が協会の考え方である。各主体で海辺をきれいにしていく取り組みを進めていきたい。</li> <li>・住民が主体となることが大切である。NPOの役割も重要である。</li> </ul>
	清掃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漫湖公園のように親水性護岸にすると、利用が促進され、清掃活動が行え海岸をきれいにできる。</li> <li>・「沖縄 海と渚 保全会」のような活動（ビーチクリーニング）を広めたい。地元が掃除しているところを見せ、環境美化を訴えたと外から来た人は絶対に汚さない。</li> <li>・清掃活動や観察会などはコスト（人件費、ゴミ処理費など）がかかる。NPO、民間のどちらが活動するにしてもペイ出来るよう、また、支障が出ないよう体制整備が必要。</li> </ul>
	発生樹木処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マングローブは炭にして濾過材として利用できるだろう。</li> <li>・ヨシの処理はチップに粉砕し、堆肥への利用が考えられる。</li> </ul>

### 3. 野鳥・干潟観察会

#### 3.1 観察会総括

平成16年12月11日（土） 沖縄市東部の比屋根湿地と泡瀬海岸において野鳥・干潟観察会を実施しました。この観察会は、比屋根湿地・泡瀬海岸の環境整備にあたり、地域の方々に自然体験を通して、環境の現状・課題をより深く知っていただき、その上で環境改善に向けたご意見・要望を把握することを目的に実施しました。

当日は、周辺の小学生及び中学生とその保護者の計50名がご参加いただきました。

観察会では、講師から生物の話を中心に環境の現状について説明を受けたあと、湿地と干潟の観察を行い、生物とその生息場となる環境の関係について考えながら、自然との触れ合いを楽しんでいる光景が見られました。

観察会の間を利用して実施したアンケートからは、「生物の生息場」、「親しみのある場」、「美しい青い海」、「自然とふれ合える場」といった今後の湿地・海岸への思いと、「水質等の改善」など環境改善に向けた取り組みへの期待が感じられました。

#### 3.2 開催内容

##### (1)目的

比屋根湿地及び泡瀬地区海岸整備にあたり、住民意向を反映した計画づくりを進めていくための一環として、野鳥・干潟観察会を開催する。観察会は、地域住民が日頃感じている環境の現状・課題に対する関心を深めて頂き、環境保全（下水道接続など）への意識啓発を図るとともに、その上で実施するアンケートによる環境整備に関連するご意見・要望の把握を目的とする。

##### (2)観察会名称

「比屋根湿地・泡瀬海岸 野鳥・干潟観察会」  
～みんなが住んでいる泡瀬の湿地&海の生き物～

##### (3)日時

平成16年12月11日（土） 9:00～12:00

##### (4)場所

比屋根湿地及びその前面の泡瀬干潟（沖縄県総合運動公園プール前）で実施した。

##### (5)参加人数（当日参加者）

区分	人数	内 訳
小学生	27名	泡瀬小5名、高原小6名 美東小10名、他小学校6名
中学生	6名	美東中6名
保護者の方々	17名	父母、先生、等
合計	50名	-

(6)開催時の状況(会場のようす)

1)講師による説明

地域住民である参加者の方々が、環境の現状に対する関心を深めていただけるよう、湿地・干潟環境と野鳥観察の各ご専門の先生方から、パネルや生体標本等を用いて、比屋根湿地と泡瀬干潟の生物を中心に環境の現状についてご説明いただきました。



2)比屋根湿地観察

各自で望遠鏡や双眼鏡を覗き込み湿地を利用する野鳥の行動を観察しながら、野鳥の生態的特徴についてご説明を受けました。また、湿地内の生物の生体標本や汚泥を観察していただき、汚れの原因や生物への影響について考えていただきました。



3)泡瀬干潟観察

講師から干潟環境の説明を受けたあと、参加者は実際に干潟に出て、砂泥の中や石底にいる干潟生物を探し観察しました。干潟の様々な生物(カニ類、貝類、海藻、等)とのふれ合いを通して、干潟環境にとって良いことは何かを考えていただきました。



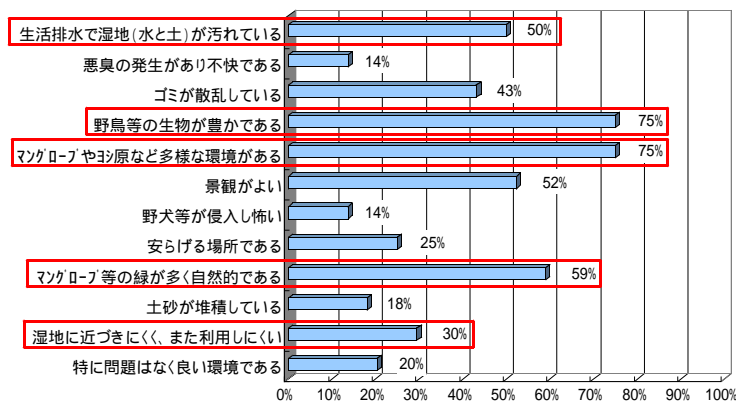
(7) アンケート結果（参加者50人中44人回答）

観察会で実施したアンケートからは、現状について、「自然が身近に残されている」、「水質等が汚れている」等の意見がありました。また、「生物の生息場」、「親しみのある場」、「美しい青い海」、「自然とふれ合える場」といった今後の湿地・海岸への思いと、「水質等の改善」など環境改善に向けた取り組みへの期待が感じられました。

1) 今日の観察会を通して感じたこと、分かったことは何ですか。

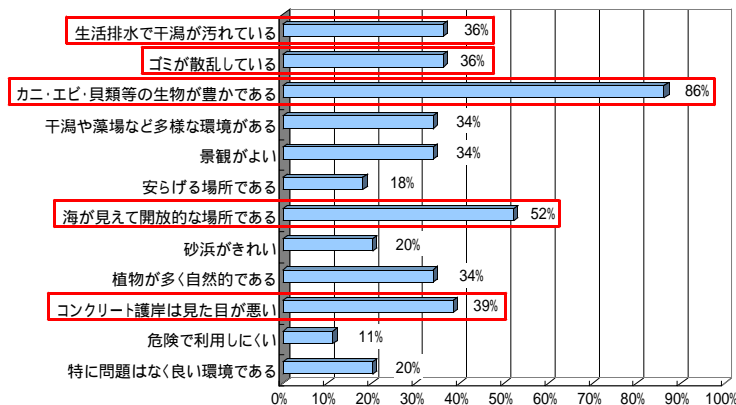
比屋根湿地について

「多様な環境がある」、「生物や緑が多い」が多く、また、問題点として「汚れている」、「利用しにくい」等の意見も多い。観察会をとおして、自然が身近に残されているものの、その環境が悪化しているという印象を持たれたようである。



海岸・干潟について

「生物が豊か」が圧倒的に多く、また、問題点として「コンクリート護岸は景観が悪い」、「干潟が汚れている」、「ゴミの散乱」等が多い。実際に見たり生物とふれ合うことで、現状を再確認していただけたようである。

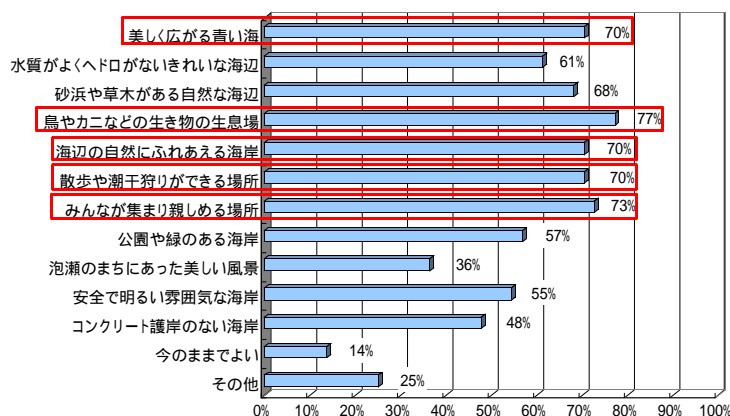


その他自由意見

「野鳥、貝、カニ等の様々な生物を観察でき楽しかった」、「また参加したい」、「このような機会を多く」、「皆で汚さないようにする」などの意見があった。実際に見て触れて知ること、良い環境づくりへの意識につなげていけると思われる。

2) 泡瀬地区海岸がどのような姿になってほしいと思いますか。

「生物の生息場」、「親しみのある場」、「美しい青い海」、「自然とふれ合える場」、「潮干狩りができる場」などの意見があった。今後については、自然豊かな美しい海岸となり、その自然との触れ合いや海岸を利用したいと願う思いが感じられる。



3) 泡瀬地区海岸域をよくするためにはどうすればいいと思いますか。

「ゴミをとる」、「生物を守る」、「水質等の改善」、「海を大切にする仲間をつくる」などの意見が多かった。環境改善に向けた取り組みへの期待が感じられ、そのためには皆の協力が必要であることがうかがえる。

